

相互提案型協働事業実施報告書

平成28年 4月26日

(宛先) 座間市長

団体 座間市入谷 4-3011-6 2-914

ざま災害ボランティアネットワーク

濱田 政宏



市長室 危機管理課

課長 武田守弘



次のとおり報告します。

| | |
|---|--|
| 1 事業名 | 避難所運営委員会・設置支援事業 |
| 2 事業形態 | <input checked="" type="checkbox"/> 市民活動団体提案協働事業 <input type="checkbox"/> 市提案協働事業 |
| 3 選考年度 | 26年度選考 (27年度実施) |
| 4 報告期間 | 平成27年 4月 1日 から 平成28年 3月31日 まで |
| 5 事業費 | 265,095 円 (うち座間市支出分 248,000 円) |
| 6 事業概要 (事業内容等を450字以内で御記入ください。) ※詳細な報告は、別紙事業評価シートに御記入ください。 | <p>継続事業2年目である。</p> <p>地域防災計画で指定されている避難所に「常設型避難所運営委員会」を設置して地域の自主防災活動と相まって、災害時に必要となる避難所が円滑にかつ有効に機能できることを目的とした委員会の設置するための活動に取り組んだ。</p> <p>失礼と思いますが、避難所の数と、旧安全防災課のマンパワー、担当課の他の職掌業務から見て市が単独で取り組むには、余裕がないことを感じて、ざま災害ボランティアネットワークが災害から学んだ知識や経験を生かして、行政へのお手伝いや地域貢献ができればと提案して取り組んだ。</p> <p>今年度は、1年間をかけて8か所の、避難所に対して呼び掛けを行って取り組んだが、施設の事情もあって結果として6か所に対して避難所運営委員会の必要性と検証訓練を通じて、避難所の開設というものは安易にできるものではなく常日頃からのつながりが必要なことを啓発すること、理解が進んだと思う。また、活動を通じて避難所施設特性に合わせて運営形態の見直しの必要性が見えてきた。</p> |
| 7 添付資料 | <input type="checkbox"/> 収支決算書 <input type="checkbox"/> 事業詳細報告書 <input type="checkbox"/> 事業記録写真 <input type="checkbox"/> チラシなどの広報資料 <input type="checkbox"/> 作成した冊子などの資料 <input type="checkbox"/> その他 () |

相互提案型協働事業評価シート

| | |
|-----|-----------------|
| 事業名 | 避難所運営委員会・設置支援事業 |
|-----|-----------------|

1 協働事業の成果

協働事業により設定した事業目的が達成できたか、市民ニーズに効率的、効果的に対応できたかなど、事業の成果について評価します。

| 項目 | 【団体の自己評価】 | 【市の自己評価】 |
|---------|--|---|
| 事業の達成度 | <p>所期の目的は、十分達成できましたか。</p> <p>8か所の計画に対して6か所にとどまったことは十分とは言えないと思っている。</p> | <p>数値目標は大切ではあるが、本事業は地域と施設管理者の理解の上で進められるものであり、量よりも質が満たされるべきと考えており、概ね達成できていると考える。</p> |
| 事業成果・効果 | <p>事業を実施したことによる成果・効果について、具体的に記入してください。</p> <p>昨年度の事業に触発されて名乗りを上げた施設もあったが半面、まったく反応がない施設もあった。事業に向けて取り組んだ施設では「委員会」の常設・事前設置が必要なこと、避難所というものは「公設・民営」であること、従来考えているほどに簡単には開設されないものであること、何よりも初動期に「自助」「隣助」が出来れば、「避難所に来なくてもよい」日常を作る必要性を理解してくれたと感じた。また、コミセン避難所の課題が見えてきたことは大きな成果の一つだと感じている。</p> | <p>手さぐりの状況で始めた事業であったが、2年目を迎え得られたノウハウと市民参加による訓練検証ができた事は、大きな成果であった。本事業終了後の避難所関連事業の展開について、方向性を見出せた。</p> <p>また、この事業を通じて地域防災の状況、各地域の特徴を知る機会にもなっており、市と地域を結ぶ地域防災の主幹事業へと成長している。</p> |

2 協働事業における取組

事業プロセスにおいて、計画段階から完了まで良好なパートナーシップが発揮されたかについて評価します。

| 項目 | 【団体の自己評価】 | 【市の自己評価】 |
|----------|--|----------|
| 目的・目標の共有 | <p>十分な協議や調整により、事業目的や課題に対する共通の認識を持つことができましたか。</p> | |

| | | |
|-----------|---|---|
| | <p>おおむね円滑な事業スケジュールの共有はできたが、事業に対する説明について私たちの思いが直接、施設側に伝える機会が少なくなった感じがした。勤務時間内に事業を進めようとする行政側の意識がそのようなことになったのではないかと感じている。今後の課題だと思う。市民協働というのは市民の時間帯が活動時間帯ということを理解してほしかった。</p> | <p>この事業の目標は、地域、施設といかに協力関係を築き地域防災力の向上に貢献できるかに係っている。市、提案者（団体）の都合ではなく、主役となる地域、施設の都合が優先されるべきであり、市、提案者（団体）は柔軟に受け止める必要がある。協働のための事業ではなく、事業を行う手段として協働があると考えている。</p> |
| 事業の進行管理 | <p>進捗状況について情報交換を行うとともに、必要に応じてスケジュール等の見直しを行うことができましたか。</p> <p>十分にできてしたが、参加団体の意識の差によって当初の計画を短縮する傾向が強かったのが残念である。確かに「訓練」はわかっているも面倒なものであることは理解できるが、東日本震災の被害が比較的少なかった地域の教訓を理解させる必要性を共有したかった。少なくとも振り返りはきちんと行わないとニーズの把握はできないのかな？と思った。前年度よりも後退した感じがあったような感じを受けた。</p> | <p>提案者は多くの防災事業に携わり、過密なスケジュールの中で、本事業を行っていただいている。地域、施設、提案者、市の日程調整は困難であるものの訓練手法、実施時間の工夫により、スケジュールの見直し等の対応ができたと考えている。</p> |
| 対 等 な 関 係 | <p>協働の相手として、対等な立場で協議することができましたか。</p> <p>対等に行ったつもりであるが「施設側の都合」ということになると何も返す言葉がなくなる。その都合を乗り越えても災害対応政策は推進して行かなければ万一の時に「不作為」に直結することになる危惧を感じた。そのようなときの我々の責任はどうなるのか不安があった。</p> | <p>本事業は提案者と市の協働事業であるばかりではなく、地域、施設との協働が必須であり、押し付けるのではなく、理解をし合う事が肝要である。自己の責任を恐れるのではなく、相手の立場を踏まえてより良い選択をする必要があると考える。</p> |
| 相 互 理 解 | <p>相手の立場や組織の特性の違いなどを理解し、互いに補える関係が築けましたか。</p> <p>十分に理解しあった。職員の方々の休日の出勤は本当に大変だったと思います。ご苦労様でした。 服務規則：予算・・・災害対応事業：ボランティア活動の在り方のジレンマには苦労した。</p> | <p>本事業以前より、協働を継続しており、互いの特性は十分に理解している。</p> |

3 協働事業における役割分担

役割分担は適正であったか、役割を果すことができたか、相乗効果を発揮することができたかなどについて評価します。

| | |
|---------|-----------------------|
| 役割分担の内容 | 役割分担の内容を具体的に記入してください。 |
|---------|-----------------------|

| | | |
|--|--|---|
| | <p>(団体の役割)</p> <p>研修の企画・準備・実施 研修内における参加者同士のコーディネーション 検証訓練時の安全管理、事故防止、応急手当への備え 検証訓練の中での活動観察と必要に応じた技術指導 避難者に対する研修 検証訓練の振り返り（今年度は不完全燃焼）とまとめ 補助金の出納管理と事業報告</p> | <p>(市の役割)</p> <p>参加団体間の調整 訓練の企画・調整 地域、施設の要望調査 会議開催に関する庶務 会場の確保と準備</p> |
|--|--|---|

| 項目 | 【団体の自己評価】 | 【市の自己評価】 |
|---------|--|--|
| 適正さ | 役割分担は適正なものでしたか。 | |
| | 適正だったと思う。 | 適正であった。 |
| 実施結果 | 設定した役割分担を果すことができましたか。 | |
| | 実施できた範囲では果たすことができたと思う。 | 果たすことができたと考える |
| 協働による効果 | それぞれが単独で実施する以上の成果を上げることができましたか。 | |
| | この事業は、量的、予算的に見て行政が単独で行った場合には大変な事業だと思うが、我々のような団体が存在する意義もここにありそれなりの成果に結びついたと思っている。 | この事業に限らず、提案団体と多くの事業で協働しており、それらの事業との相乗効果が発揮されている。市単独では職員の負担が大きく、事業実績は半減すると思われる。 |

4 今後の具体的な展開

| | | |
|---------|---|--|
| 事業の波及効果 | 今後、実施事業をどのような形で展開していくことが望ましいと思いますか。 | |
| | <p>(団体の考え)</p> <p>引き続き28年度も継続事業で取り組むが市自連の単位自治会への伝達力との連携が成功のカギを握っていると思う。その意味では、座間市も市長室危機管理課のみならず市民協働課、教育部の果たす役割も大きいと感じる。28年度事業でも手をつけることができない施設については危機管理課との協働事業で取り組もうと考えている。二次避難所やみなし避難所の取り組みも残っている。 行政の許しがあれば協力は惜しまない考えでいる。</p> | <p>(市の考え)</p> <p>平成28年度は予定箇所の展開を完遂し、それ以降は地域と綿密に連絡を取り、本事業で得られたノウハウにより各所に展開をしたい。また、展開箇所を拡大するのではなく、着手済みの避難所について事業が継続していくことを優先させて、堅実な運営体制が築かれた後に、他の避難所形態についても波及をさせていきたい。</p> |